

まちの人事企画室

令和6年9月



京都府北部を中心とした企業の**人材課題**に対して**経営課題**や**採用課題**の視点で事業支援  
地域課題に対して、**コーディネーター業務**や**中間支援業務**を中心に行政より受託

### 〈設立趣意〉

このまちのなかで人のためになる事を企画し、  
地方の仕事や働き方の選択肢を広げるために設立

### 〈事業〉

#### (1)企業の人事業務の伴走支援

- ・ 経営企画支援（事業計画支援）
- ・ 採用戦略（採用課題・課題解決）
- ・ 労務管理（バックオフィス業務の効率化）
- ・ 人材育成（育成ビジョン、制度設計、研修等）
- ・ デザイン業務（ロゴ、WEB、パンフレット）

#### (2)行政の委託事業の伴走支援

- ・ 行政の採用支援業務
- ・ 高校生の居場所づくり支援事業
- ・ 高校魅力化コーディネーター事業
- ・ 大学と地域とのコーディネーター事業
- ・ 雇用促進事業

社名 | 有限責任事業組合まちの人事企画室

所在地 | 京都府京丹後市網野町網野1655-3

設立 | 2020年6月

組合員 | 川淵 一清・和田 直樹・山本 尚毅

### roots運営



### ふるさと創生職員採用活動



### 夢まちづくり大学 地域コーディネート



## 設立

- ・ 2022年11月設立  
→たんちる**2名** **5**事業者
- ・ 2023年  
→たんちる**4名** **8**事業者
- ・ 2024年  
→たんちる**6名** **11**事業者  
**1名卒業**



ほむたん

TEAM  
HOME  
TANGO

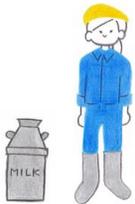


## 労働者（たんちる）

- ・ 設立～現在まで**7名**
- ・ **20代～30代**の若年層中心
- ・ 男性**5名**、女性**2名**、移住者
- ・ **月一面談**でキャリア相談
- ・ **第一号が卒業者**  
→**派遣先の酒造に就職**

# 京丹後地域づくり協同組合

挑戦したい人を応援し、チームとして事業者も一緒に成長する



## 収支

- ・ 派遣料：**1400円**
- ・ 2022年度  
→売上 1,188,950 純利益 **101,273**
- ・ 2023年度  
→売上 8,178,969 純利益 **277,986**
- ※15万円を受入事業者に配当

## 事務局

- ・ 3名（採用・労務法務  
事業者/たんちる）
- ・ 労働力派遣ではなく  
人材と事業者のマッチング  
→**中長期的な採用活動**
- ・ 採用：移住窓口との連携  
リファラル、就職フェア

## 事業者

- ・ 農家、酒造メーカー、漁業、  
魚屋、ジャージー牧場
- ・ 出資金一口5万円～
- ・ **コンセプトへの理解優先**
- ・ **月一面談**で受入状況確認  
→人材課題などヒアリング

	与謝 (R4～)	宇川 (R4～)	伊根 (R6～)
地縁	一部あり	あり	一部あり
伴走内容	地域現状把握調査 キーマン個別協議 SDGsWS設計 SNS広報支援 PJT進捗管理サポート ホースセラピー要件整理 地域資源調査レポート 市民農園運用支援	地域現状把握調査 施設活用WS設計 WSファシリテーション ビジョン策定 事務局事務サポート 加工品製造作業支援 パッケージ制作支援 交流イベントサポート	伊根町との関係性づくり 地域現状把握調査 キーマンとの個別協議 ビジョンWS設計 ファシリテーション 事務局サポート 加工品販路支援
接触	打合せ 総会 オンラインMTG 現地調査 農作業	打合せ 理事会 現地作業 イベント 農作業	打合せ 総会 オンラインMTG

丹後エリア内で持つ地縁を活かした伴走支援  
企画や提案をするだけでなく現場へ行き手を動かし、信頼関係を構築

## 直接支援

## 間接支援

## 中間支援

### 目的

実稼働による事業推進  
信頼関係構築

主体性を奪わない  
事業推進

地域・行政  
関連団体間の連携支援  
計画の実行・調整

### 業務内容

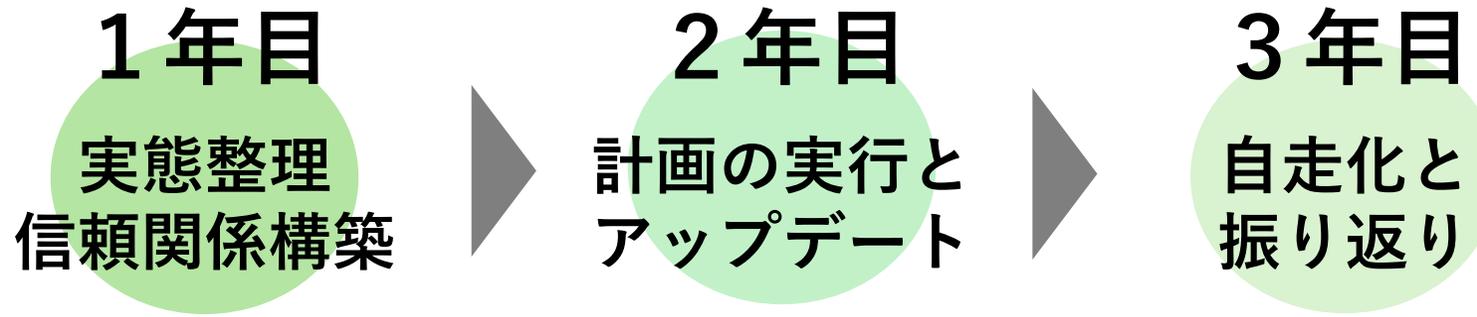
WSの企画設計運営  
プロジェクトマネジメント  
イベントスタッフ稼働  
部会活動への参加

会議への参加  
ビジョン策定支援  
活動方針の提案  
事務局サポート

府との定例会  
地方自治体との協議  
事業変化のフィードバック  
計画実行・年度末報告の調整

現地を中心とした直接支援と間接支援から得た実態を元に行政へフィードバックを行い  
事業の適切な推進と変化への対応を実施

伴走支援業務の3カ年イメージ



	1年目 実態整理 信頼関係構築	2年目 計画の実行と アップデート	3年目 自走化と 振り返り
直接支援	信頼関係構築の為 積極的に実施	必要に応じて実施	支援頻度は 減らしていく
間接支援	ビジョン策定など 必要に応じて実施	自走を見据えて 積極的に実施	支援頻度は 減らしていき 必要に応じて実施
中間支援	初年度の現状把握把握を ベースに積極的に実施	変化への対応など 必要に応じて実施	3カ年のまとめとして 積極的に実施
支援頻度	週1回～	週1回	月1回～2回

# 伴走支援業務 = 直接支援 ・ 間接支援 ・ 中間支援

---

- 車で30分～1時間圏内での支援  
→ 支援地域へ通いで得られる **関係性づくり** や **地縁を活かした伴走** が可能
- **事業主体は地域**  
→ 地域への思いを汲み取りながら意思決定を引き出す
- 必要に応じてPJTを動かす  
→ PJTの初動サポートは行うが **自走を前提に適度なタイミングで引く**
- 事務局員を孤立させない  
→ 一緒に悩み寄り添いながら事業を推進、 **事務局員のモチベーション向上**

## 関係部署が多く地方自治体との関係性づくりが難しい

→ 初期段階から事業計画を元に地方自治体と**協議を重ねる**必要がある

## 事務局や部会の人的リソース不足を踏まえた計画策定が必要

→ 現実的な落とし所を決め、**計画を柔軟に変化**させていく必要がある

→ 伴走支援事業者を人的リソースとみなされると事業終了後にまたリソース不足に

## 活動の取捨選択とリソースの集中

→ 3年間で把握した実態と仮説検証の結果を元に、必要な**活動を取捨選択**する

→ リソースを集中させ、**持続可能性の高い活動 = 自走化**へとつなげる